

高品質路線で市場開拓

戦後日本の経済発展は、貿易自由化の動きを抜きに語ることはできない。戦争で国土が徹底的に破壊され、国内にまったく資源がない日本が経済発展するためには、海外から資源やエネルギーを輸入し、それを加工して海外に輸出するしかなかった。

幸いにも戦後の世界は貿易自由化の流れにあった。GATT(関税と貿易に関する一般協定)ができ、米欧や欧州が主導して貿易自由化を進めていったのだ。戦後の復興を目指す日本は、GATTのフルメンバーになることを目指し、懸

伊藤 元重

構造開発研究所 理事
東京大学 教授

命に貿易自由化を進めていった。今と同じように、当時も貿易自由化に対して懸念する声は大きかった。昭和30年代は、自動車やエレクトロニクスなどの産業はまだ国際競争力が弱かった。日本が貿易自由化を進めれば国内産業は壊滅的な打撃を受けるといふ声は産業界から出されていた。しかし、

える。海外企業との競争を意識しコスト削減と技術開発に必死にならざるを得ない。貿易自由化は海外市場を日本の企業に開くことであり、輸出を拡大することで成長をすることが可能になった。貿易自由化で競争力が強くなったのは工業分野だけではない。サクランボは米欧が輸入自由化を強

抗するためにも、山形などのサクランボ農家は徹底した高品質路線を追求した。その結果、安い輸入品とはまったく違った市場を開拓することができた。いまや山形にはサクランボ御殿が多くできて、と地元経済界の方が言っていた。

強い農産品の出現期待

厳しい競争にさらされるからこそ、生産者もいろいろ工夫することになる。いまや九州の中小生産者の焼酎の中には高級ブランド化しているものさえ少なくない。芋やそばを使った日本の独特の焼酎は、品質とマーケティングさえしっかりすれば、欧州のウイスキーやブランデーと直接競合するものではない。

貿易自由化が競争力育む

敗戦国であった日本にとって、一刻も早く国際社会に復帰することが国是であり、積極的に貿易自由化を進めていったのだ。

く求めた分野だ。カリフォルニアでは低価格のサクランボ(チェリー)が大量にとれる。こうした米欧産のチェリーが大量に入ってくれば、日本のサクランボは壊滅的な状況になると農業者は反対した。しかし現実はその逆であった。米欧の低価格のチェリーと対

焼酎も同じだ。欧州から焼酎に優遇されている税率はフェアでないとい指摘され、GATTの紛争処理の審議でも日本の制度は認められなかった。欧州の求めるように、焼酎とウイスキーやブランデーの税率をそろえたら、九州の中小の焼酎業者は生き残れないと言われた。

安倍晋三総理はTPP(環太平洋連携協定)の交渉参加を表明した。海外との競争は大変ではあると思うが、これを機会に日本にサクランボや焼酎のような、強い競争力をもった農産品が多く出てくることを期待したい。コメでも畜産品でも、日本の食品の品質は海外のものに負けるものではないのだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。